

1 疾病と影響因子の組合せで正しいのはどれか。

- a 乳 癌——— 石 綿
- b 白血病——— 運動不足
- c 2型糖尿病——— 放射線
- d 子宮頸癌——— ヒト乳頭腫ウイルス
- e 悪性中皮腫——— ヘリコバクター・ピロリ

2 Apgarスコアの観察項目に含まれるのはどれか。

- a 筋緊張
- b 経皮酸素飽和度
- c 心雑音
- d 身 長
- e 体 重

3 作業管理はどれか。3つ選べ。

- a 騒音職場で騒音測定を行う。
- b 振動作業において防振手袋を着用させる。
- c 作業面を上げることで中腰作業をなくす。
- d 有害物質の大きい物質を少ない物質に代替する。
- e 粉じん作業に従事する者に防塵マスクを着用させる。

4 アレルギーを惹起する可能性があるため、食品に表示しなければならない原材料はどれか。2つ選べ。

- a 米
- b 小 麦
- c 落花生
- d マンゴー
- e ジャガイモ

5 思春期の体の変化で正しいのはどれか。

- a 男子では一般に11~14歳頃に発育急伸期がみられる。
- b 女子では一般に19歳頃に最終身長に達する。
- c Tanner分類1期の女子では乳頭と乳房が小さく隆起する。
- d Tanner分類3期の男子では恥毛は陰茎部に沿ってまばらに生える。
- e 男子では一般に12歳頃より声変りがみられる。

6 胎児期の器官形成について誤っているのはどれか。

- a 胎児の赤血球は、肝臓で作られる。
- b 胎児心拍数は、妊娠12週頃がもっとも低い。
- c 妊娠初期の母体高血糖は、奇形発生のリスクになる。
- d 受精後10日までの放射線被ばくでは、奇形発症率の上昇はない。
- e 葉酸を妊娠前から摂取すると児の神経管閉鎖障害発症のリスクが減少する。

7 喫煙対策について正しいのはどれか。

- a 医師法では禁煙が努力義務として規定されている。
- b 禁煙補助薬には医師の処方が必要無いものもある。
- c 日本政府はWHOのたばこ規制枠組条約を批准していない。
- d 健康日本21の具体的目標に未成年者の喫煙率の半減がある。
- e ニコチン依存症に対する禁煙治療は保険診療の対象ではない。

8 急性上部消化管出血の診断で、上部内視鏡検査の感度は99%、特異度は90%である。上部内視鏡検査で出血が陽性のときの尤度比はどれか。

- a 0.1
- b 0.99
- c 9.9
- d 18
- e 99

9 麻薬性鎮痛薬について正しいのはどれか。

- a 便秘を来す。
- b 呼吸抑制は生じない。
- c 1か月投与は認められない。
- d モルヒネを服用すると散瞳する。
- e がん性疼痛に用いると依存になりやすい。

10 新鮮凍結血漿輸血の適応があるのはどれか。2つ選べ。

- a 血友病A
- b 低アルブミン血症
- c 低 $\gamma$ -グロブリン血症
- d 血栓性血小板減少性紫斑病
- e ワーファリン過剰投与による頭蓋内出血

11 アルコール綿で消毒し、右上腕から 20 ml の採血検査を行った後にショックとなった。

原因として考えられるのはどれか。2 つ選べ。

- a 心原性ショック
- b 敗血症性ショック
- c 神経原性ショック
- d アナフィラキシーショック
- e 循環血流量減少性ショック

12 3 か月の母乳栄養児。出生体重は 3,100g。

母乳不足が考えられるのはどれか。

- a 体重 6 kg。
- b 授乳後すぐに就眠する。
- c 便が柔らかく回数が多い。
- d 1 回の授乳に 40 分ほどかかる。
- e 3~4 時間おきに母乳をほしがる。

13 分娩の前駆症状はどれか。2 つ選べ。

- a 胎動の増加
- b 子宮底の上昇
- c 子宮頸管の熟化
- d 母体尿量の減少
- e 血性粘液性の膣分泌物

14 世界の保健活動組織の正しい名称と略語の組合せはどれか。

- a 国際労働機関—— ILO
- b 世界医療機構—— WHO
- c 国連世界食糧計画—— FAO
- d 保健協力開発機構—— OECD
- e 国連エイズ合同計画—— UNHIV

15 診療時に配偶者からの暴力による負傷や疾病と考えられる者を発見した場合の対応として誤りはどれか。

- a 守秘義務は免れる。
- b 被害者の意思に関わらず通報してよい。
- c 被害者の自尊心を傷つけないようにする。
- d 相談窓口等の情報を提供するよう努めなければならない。
- e 配偶者暴力相談支援センター又は警察官に通報することができる。

16 胃酸分泌能について正しいのはどれか。

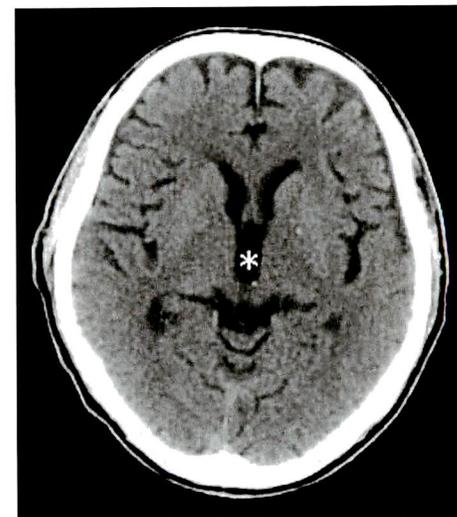
- a 萎縮性胃炎は高酸を呈する。
- b 高位胃潰瘍は低酸を呈する。
- c 十二指腸潰瘍は低酸が多い。
- d 十二指腸ブレイキにより胃酸分泌は亢進する。
- e Zollinger-Ellison 症候群では酸分泌は低下する。

17 急性心筋梗塞後に心不全を合併した患者さんに、Swan-Ganz カテーテルを留置した。正常値はどれか。

- a 右心房圧：12 mmHg
- b 肺動脈収縮期圧：22 mmHg
- c 肺動脈楔入圧：16 mmHg
- d 心係数：2.1 l / 分 / m<sup>2</sup>
- e 混合静脈血酸素飽和度：50 %

18 図に示した (\*) の部位の名称は何か。

- a 側脳室
- b 第 2 脳室
- c 第 3 脳室
- d 中脳水道
- e 第 4 脳室



図

19 自己免疫疾患はどれか。

- a 悪性貧血
- b サラセミア
- c 骨髄異形成症候群
- d メイヘグリン異常症
- e 遺伝性球状赤血球症

20 正しいのはどれか。

- a 高山病は高圧酸素療法のよい適応である。
- b 7 l/分の酸素投与には経鼻カヌラが適当である。
- c 慢性肺気腫患者は包括的呼吸リハビリテーションのよい適応である。
- d 持続的気道陽圧法（CPAP）使用時には、酸素投与を併用すべきではない。
- e 咳嗽反射がなく、誤嚥性肺炎を繰り返す患者は非侵襲的人工換気（NPPV）のよい適応である。

21 痛風で正しいのはどれか。

- a 女性に多い。
- b 腎結石を発症する。
- c 尿酸産生過剰型が多い。
- d 尿酸塩は糸球体に沈着する。
- e 尿酸は体内で5 mg/dl以上になると析出する。

22 下腸間膜動脈から分枝する血管はどれか。

- a 中結腸動脈
- b 内腸骨動脈
- c 外腸骨動脈
- d 上直腸動脈
- e 中直腸動脈

23 次のうち、母子保健法に規定されていないのはどれか。

- a 母子健康手帳の交付
- b 妊婦健康診査
- c 未熟児養育医療
- d 1歳6か月児健診
- e 出生証明書の交付

24 周産期死亡率と関係するのはどれか。

- a 12週以降の死産
- b 24週以降の死産
- c 28週以降の死産
- d 7日未満の新生児死亡
- e 28日未満の新生児死亡

25 医療法に基づく医療計画に記載されている4疾病5事業について誤っているのはどれか。

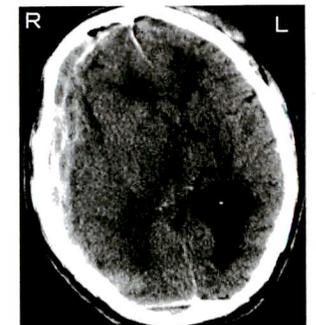
- a 糖尿病について記載されている。
- b 5事業の一つは救急医療である。
- c 高齢者医療について記載されている。
- d 4疾病の中には急性心筋梗塞が含まれる。
- e 地域連携クリティカルパスの普及が推奨される。

26 健康日本21について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 健康寿命の延長を目指す。
- b 生活の質の向上を目指す。
- c 数値目標を設定している。
- d 二次予防（健診）に重点をおく。
- e 歯の健康は重点項目に含まれていない。

27 この頭部単純CTから予想される急速に進行する症状として誤っているのはどれか。

- a 徐脈
- b 高血圧
- c 下顎呼吸
- d 瞳孔不同
- e 項部硬直



頭部単純CT

28 慢性閉塞性肺疾患にみられる所見はどれか。

- a 脊椎側弯
- b 吸気の延長
- c 極端な肥満
- d 口すぼめ呼吸
- e 心濁音界拡大

29 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 非電離放射線により皮膚炎は起こる。
- b 電離放射線による発がんは確定的影響である。
- c 電離放射線による白内障は早期障害の一つである。
- d 電離放射線による奇形誘発は妊娠後期の被曝が多い。
- e シーベルト<Sv>は放射線防護のために用いられる単位である。

30 無脈性電気的活動が見られる場合に投与すべき薬剤はどれか。

- a アトロピン
- b アドレナリン
- c アミオダロン
- d ジゴキシン
- e ベラパミル

31 自我意識の障害はどれか。

- a 離人(症)
- b 構成失行
- c 連合弛緩
- d 緊張病症候群
- e Kleine-Levin 症候群

32 光線過敏と関連のない疾患はどれか。

- a 種痘様水疱症
- b 色素性乾皮症
- c 薬剤性過敏症症候群
- d 全身性エリテマトーデス
- e 晩発性皮膚ポルフィリン症

33 喉頭を形成しないのはどれか。

- a 舌骨
- b 輪状軟骨
- c 披裂軟骨
- d 甲状軟骨
- e 喉頭蓋軟骨

34 尿路の機能について誤っているのはどれか。

- a 閉鎖神経は排尿に関与する。
- b 陰部神経は蓄尿に関与する。
- c 外尿道括約筋は随意筋である。
- d 尿管は蠕動運動で尿を輸送する。
- e 前立腺には $\alpha 1$ 受容体が存在する。

35 正しいのはどれか。

- a 瞳孔径は加齢とともに大きくなる。
- b 瞳孔散大筋はコリン作動性である。
- c 瞳孔括約筋は動眼神経支配を受ける。
- d 近見によって散瞳する。
- e 眼圧上昇によって縮瞳する。

36 正しい組合せはどれか。

- a 披裂筋———声帯を緩める———上喉頭神経支配
- b 外側輪状披裂筋———声帯を緩める———上喉頭神経支配
- c 後輪状披裂筋———声帯を緩める———下喉頭神経支配
- d 輪状甲状筋———声帯を緊張させる———上喉頭神経支配
- e 甲状披裂筋———声帯を緊張させる———下喉頭神経支配

37 空腹時の組合せで正しいのはどれか。

- a 筋肉———グリコーゲン合成促進
- b 脂肪組織———脂肪酸放出促進
- c 膵臓———インスリン分泌促進
- d 脳———レプチン分泌促進
- e 副腎———グルカゴン分泌促進

38 活性化が人での発癌につながる遺伝子はどれか。2つ選べ。

- a APC
- b *c-myc* <MYC>
- c *K-ras* <KRAS>
- d *p53* <TP53>
- e *Rb* <RB1>

39 薬剤と副作用の組合せで誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 吸入麻酔薬——— 高熱
- b 塩酸モルヒネ——— 下痢
- c 甲状腺ホルモン——— るいそう
- d イソプロテレノール——— 空咳
- e 非ステロイド性抗炎症薬——— 浮腫

40 医原病はどれか。

- a 刺青によるHIV感染
- b 入院中に発症したインフルエンザ
- c 入院中の転倒を原因とする大腿骨骨折
- d 母子間感染によるB型肝炎ウイルスキャリア
- e 針を替えずに行った集団予防接種で感染したC型慢性肝炎

41 41歳の初産婦。妊娠28週0日の妊婦健診の際、超音波検査を実施し、胎児計測を行ったところ、以下の様な結果になった。

計測部位		計測値	偏差値
児頭大横径	BPD	68 mm	-0.64
腹囲	AC	186 mm	-2.53
大腿骨長	FL	48 mm	-0.53

推定胎児体重は835gで偏差値は-2.11と計算された。

次に行うべき検査はどれか。

- a 胎児採血
- b 胎児MRI検査
- c 羊水染色体検査
- d ノンストレステスト
- e マイクロバブルテスト

42 58歳の女性。専業主婦。

健康診断で高血糖と肥満を指摘されて来院した。

身長154cm、体重67kg、BMI28kg/m<sup>2</sup>。血圧134/84mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖2+、ケトン体(-)。

血清生化学所見：空腹時血糖140mg/dl、HbA1c6.2%。

指導を行う上でエネルギー指示として適切なのはどれか。

- a 1,000 kcal
- b 1,300 kcal
- c 1,600 kcal
- d 1,800 kcal
- e 2,200 kcal

43 39歳の0経妊0経産婦。妊娠中は順調に経過していた。41週2日、自然に陣痛発来し、入院した。胎児心拍陣痛図は正常所見で、分娩第2期遷延のため、吸引分娩をおこなったところ、2度滑脱し、3度目に娩出できた。児は3,872gの女児で、アプガースコアは、1分値7点/5分値8点、保温と気道確保に気をつけて経過を診た。

12時間後、児の頭部全体に暗赤色の腫脹が広がり、ぐったりした。

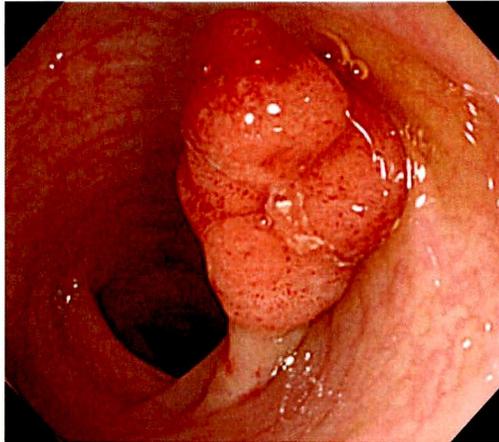
考えられる病態はどれか。

- a 産瘤
- b 頭血腫
- c 脳室上衣下出血
- d 帽状腱膜下出血
- e 横隔膜神経麻痺

44 67歳の女性。検診で便潜血陽性であったため、精査のため来院した。既往歴と家族歴に特記すべきことはない。腹部は平坦、軟で、圧痛は認めない。血液所見：赤血球410万、Hb 13.2 g/dl、Ht 40%、白血球7,200、血小板19万。血液生化学所見：TP 6.8 g/dl、Alb 4.0 g/dl、AST 20 IU/l、ALT 18 IU/l、LDH 215 IU/l（基準119~229）、ALP 275 IU/l（基準115~359）。免疫学所見：CRP 0.1 mg/dl、CEA 2.5 ng/ml（基準5以下）。下部消化管内視鏡写真を示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 外科的手術
- b 抗癌化学療法
- c 無治療で経過観察
- d 内視鏡的ポリペクトミー
- e 内視鏡的粘膜下層剥離術



下部消化管内視鏡写真

45 82歳の女性。一人暮らしで、これまで家事はすべて自立していた。玄関で転倒し、左大腿骨を骨折した。

入院加療後、自立歩行が可能となり退院の予定だが、今後の適切な対応はどれか。

- a 特定機能病院への入院を勧める。
- b 生活支援の実施は介護福祉士に限定する。
- c 特別養護老人ホームへの入所の手配をする。
- d 通所による運動リハビリテーションを勧める。
- e ベッド上安静の時間を長くするよう指示する。

46 78歳の男性。慢性閉塞性肺疾患により2年前から在宅酸素療法を行っている。普段の酸素投与量は、安静時0.5 l/分、労作時1 l/分である。数日前より感冒症状が出現し、本日より発熱、湿性咳嗽、呼吸困難が出現し、救急外来を受診した。体温38.3℃、脈拍120回/分、血圧114/62 mmHg、呼吸回数30回/分、SpO<sub>2</sub> 82%（酸素1 l/分吸入下）。意識レベルは混濁。動脈血液ガス分析にて、pH 7.21、PaO<sub>2</sub> 51.8 Torr、PaCO<sub>2</sub> 70.5 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 28.4 mEq/l。

この患者について正しいのはどれか。

- a 代謝性アシドーシスである。
- b 意識障害があるため、頭部CTスキャンをまず先に行う。
- c 低酸素血症は重篤ではないため、酸素投与量は増やさず様子を見る。
- d 高圧酸素療法の適応である。
- e 人工呼吸療法も考慮して診療する。

47 18歳の男子。口渇、多飲、多尿および全身倦怠感を主訴に来院した。

現病歴：大学入学時の健康診断で尿糖を指摘されたが放置していた。1か月前より口渇が強く、1日に3 lの水分を摂取している。1週間前より全身倦怠感を自覚している。体重は1か月で5 kg減少している。

既往歴、家族歴：特記すべきことはない。

受診時身体診察：意識清明。身長170 cm、体重52 kg。体温36.8℃。脈拍102/分、整。血圧94/62 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見：尿所見：糖4+、蛋白(-)、潜血(-)、ケトン体3+。

血液所見：赤血球540万、Hb 16.2 g/dl、Ht 51.3%、白血球8,700、血糖652 mg/dl、HbA1c 10.2%、総蛋白7.9 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素29.6 mg/dl、クレアチニン0.9 mg/dl、Na 134 mEq/l、K 5.6 mEq/l、TSH 1.86 μU/ml（基準0.3~4.0）、FT4 1.2 ng/dl（基準1.0~1.8）。

診察所見でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 手指振戦
- b 口腔粘膜乾燥
- c 皮膚色素沈着
- d Kussmaul大呼吸
- e びまん性甲状腺腫

48 26歳の男性。悪心と呼吸困難を主訴に来院した。う歯の治療のため、歯科医院で局所麻酔を開始したところ、数分後に悪心と呼吸困難が出現した。呼吸数26/分。血圧78/46 mmHg。胸部全体に wheezes を聴取する。

アレルギー反応の Coombs 分類で同じ型に属するのはどれか。

- a 接触性皮膚炎
- b 過敏性肺臓炎
- c 急性糸球体腎炎
- d アレルギー性鼻炎
- e Goodpasture 症候群

49 35歳の男性。自家用車を運転中に衝突事故を起こし、救急車で搬送された。ハンドルで腹部を打ったという。腹部は平坦で右季肋部から心窩部に圧痛と打撲による皮下出血を認める。聴診・触診上、特に異常を認めない。顔面蒼白、眼瞼結膜に軽度の貧血を認めるが眼球結膜に黄染は認めない。視・聴診で異常なく、筋性防御はみられない。呼吸数18/分、整。血圧110/80 mmHg。血液所見：Hb 10.6 g/dl、白血球9,800。

まず行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 腹部造影CT
- b 腹腔動脈造影
- c 腹部超音波検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 静脈性尿路（腎盂）造影

50 生後1日の新生児。在胎40週、出生体重2,900 g、Apgar スコア8点（1分）で出生した。哺乳は良好で、排便と排尿を認めている。

精査の対象となる皮膚所見はどれか。2つ選べ。

- a 可視的黄疸
- b 背部の蒙古斑
- c 後頭部の血管腫
- d 頭部の脂腺母斑
- e 体幹のチアノーゼ

51 32歳の初産婦。妊娠39週、周期的な子宮収縮を主訴に来院した。身長153 cm、体重74 kg（非妊時69 kg）。体温36.6℃。脈拍72 /分。血圧128/74 mmHg。来院時の内診では、児頭が先進しており、子宮口は4 cm開大、展退70%、児頭の高さはSp ± 0 cm、頸管は中央に位置し、硬度は軟だった。内診指で卵膜を触知しなかった。膣分泌物は水様で、BTB試験紙をつけたところ青変した。子宮収縮は15分から20分に1回程度で、子宮収縮のたびに疼痛を訴えていた。胎児心拍数陣痛図では、心拍数基線は160 bpm、心拍数基線細変動は保たれていた。40分間の検査で、一過性頻脈及び一過性徐脈は認められなかった。血液所見：白血球数8,400。免疫学所見：CRP 0.03 mg/dl。

対応として適切なのはどれか。

- a 一時帰宅
- b 緊急帝王切開
- c 骨盤エックス線撮影
- d 胎児心拍数モニタリングの継続
- e オキシトシン点滴による陣痛促進

52 45歳の男性Aは、中小企業のサラリーマンで被用者保険に加入している。40歳の妻と3歳の娘、80歳の父は無職で被扶養者である。先日男性Aは健康診断を受け、高血圧を指摘された。その翌日に業務中に負傷し、通院治療することになり、労災認定された。妻も健康診断を受けたが、異常は指摘されなかった。3歳の娘は喘息発作のため、近所の病院を受診した。80歳の父は、高血圧と脂質異常症のため通院中である。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 3歳の娘の自己負担率は2割である。
- b 80歳の父の通院加療のための費用は無料である。
- c 男性Aの負傷に関する治療費は公費医療の対象となる。
- d 男性Aの高血圧のための治療費は保険給付の対象となる。
- e 男性Aの健康診断は保険給付の対象になる。

53 70歳の男性。下肢痛と腰痛を主訴に来院した。

現病歴：2年前から歩行時に増強する殿部痛と両下肢痛を認めていた。3か月前から会陰部の異常感覚を自覚していた。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：腰部と殿部に圧痛を認める。下肢伸展挙上テスト（Lasègue徴候）は陰性である。下肢の深部腱反射や感覚障害は認めない。両側足背動脈の拍動は良好である。

腰椎単純エックス線像（前後像・側面像）と腰部MRI T2強調像（矢状断）を示す。

この疾患でみられる歩行障害はどれか。

- a 随意跛行
- b 墜落跛行
- c はさみ歩行
- d 逃避性跛行
- e 間欠〔性〕跛行



腰椎単純エックス線像（前後像・側面像）



腰部MRI T2強調像（矢状断）

54 72歳の男性。公園で倒れているところを通行人が発見し、救急車で搬送された。来院時、発語はなく、舌根沈下が見られ、口腔内は分泌物が多量であった。呼吸は36/分で、呼気にニンニク臭を認めた。体温35.6℃。血圧68/40 mmHg。心拍数40回/分。意識はJCS 100。発汗が著明であった。

この患者の所見で認められないのはどれか。

- a 散瞳
- b 喘鳴
- c 振戦
- d 筋線維攣縮
- e 気道狭窄音

55 72歳の男性。3日前に右片麻痺を発症し救急搬送された。意識はJCS I-3、呼吸数12、整。心拍数は82/分、整。血圧178/98 mmHg。呼びかけに反応するが発語は困難で、嚥下反射は遅延する。右上下肢は弛緩性であり随意運動はない。CTにて左被殻に高吸収域がある。

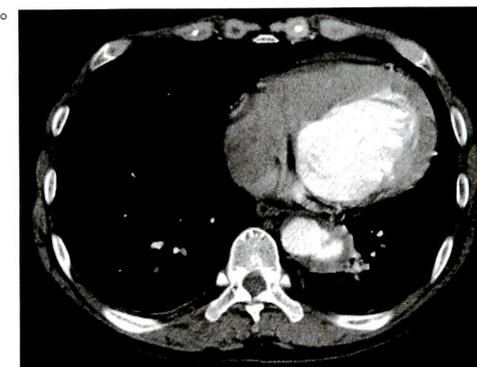
まず処方するリハビリテーションはどれか。

- a 安静
- b 経口摂取
- c 立位訓練
- d 関節可動域訓練
- e ポータブルトイレで排尿訓練

56 68歳の男性。透析歴なし。2日前から持続する背部痛を主訴に来院。体温36.4℃。脈拍76/分、整。血圧164/92 mmHg。白血球4,200/ $\mu$ l。血清クレアチニン2.8 mg/dl。血清CRP 0.28 mg/dl。胸部造影CT写真を示す。この症例に対しステントグラフト挿入術を行った。

合併症として可能性の低いのはどれか。

- a 対麻痺
- b 透析導入
- c 急性心筋梗塞
- d 急性大動脈解離
- e 下肢急性動脈塞栓症

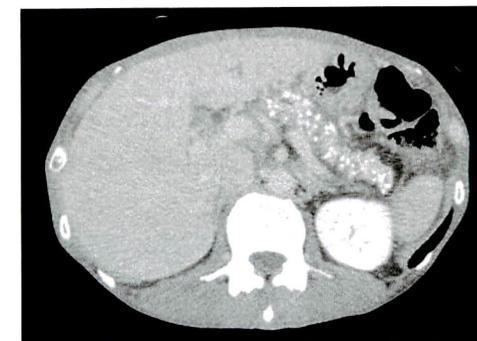


胸部造影CT写真

57 39歳の男性。腹痛を主訴に来院した。10年前からたびたび腹痛発作で通院加療を受けている。来院時の腹部造影CTを示す。

診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 胃液検査
- b BT-PABA試験（PFD試験）
- c pHモニタリング
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 磁気共鳴胆管膵管撮影（MRCP）



腹部造影CT

58 32歳の男性。8年前から統合失調症の治療を受けている。発病から就労はできていない。3か月前怠薬を契機に精神症状が悪化し、入院加療となったが、内服治療により症状改善し、退院することとなった。

この患者がこの時点で利用するのに適切でない施設はどれか。

- a 授産施設
- b 地域作業所
- c 精神科デイケア
- d 生活支援センター
- e ショートステイ施設

59 46歳の男性。頭痛に対して市販の鎮痛薬を内服したところ、左の手背に紅斑が出現した。紅斑は痛痒さを伴っていた。紅斑出現後、1週間の経過で写真のように色素斑となった。以前にも同じ鎮痛薬を飲んだ後に、全く同じ部位に紅斑が出現したことがある。

原因検索のために必要な検査はどれか。

- a 光線テスト
- b パッチテスト
- c Tzanck 試験
- d 光パッチテスト
- e プリックテスト



写真

60 77歳の男性。肺癌と診断されたが病院嫌いのため、自宅療養中であり、定期的に担当医の往診を受けていた。家族から朝起きたら亡くなっていたと連絡が入ったため、担当医は直ちに往診した。なお最終の往診は2日前であった。死後診察の結果、異状はなく死因は肺癌と推定された。

死亡診断書（死体検案書）の発行について正しいのはどれか。2つ選べ。

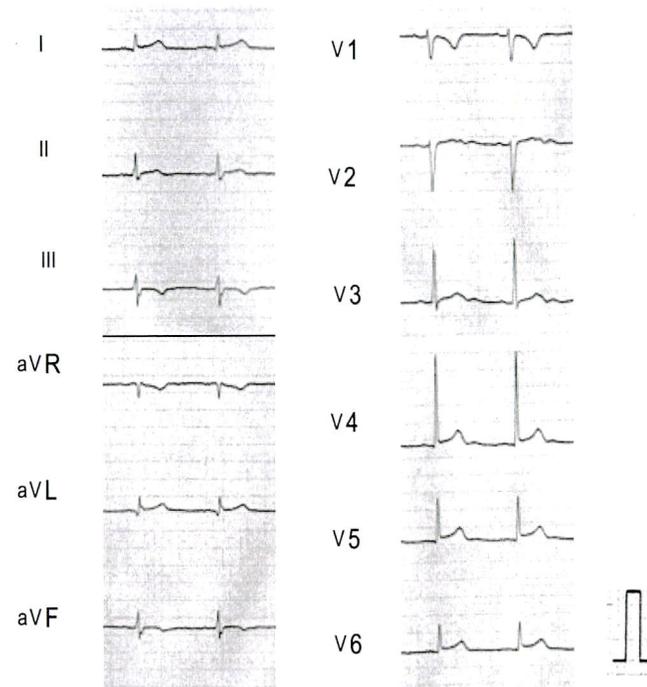
- a 肺癌として死亡診断書を発行する。
- b 事前に所轄警察署に届け出が必要である。
- c 死亡時刻には死後診察の時刻を記入する。
- d 死亡時刻には家族の発見時刻を記入する。
- e 担当医の署名があれば押印は不要である。

次の文を読み、61～63の問いに答えよ。

28歳の男性。生来健康。1か月前に抜歯をした。

1週間前から38℃を超える発熱があった。3日前より下痢と嘔吐が出現した。昨日から胸痛が出現し、徐々に呼吸困難が加わった。

来院時、体温38.2℃。脈拍62/分、不整。血圧82/66 mmHg。肺ラ音なし。心 ギャロップを聴取。結膜 貧血なし、黄疸あり。肺ラ音はないが、拡張早期に過剰心音を聴取した。頸静脈怒張や下腿浮腫はなかった。心電図を示す。心エコー図では、びまん性の左室壁運動低下を認めたが、心膜液の貯留はなかった。



心電図

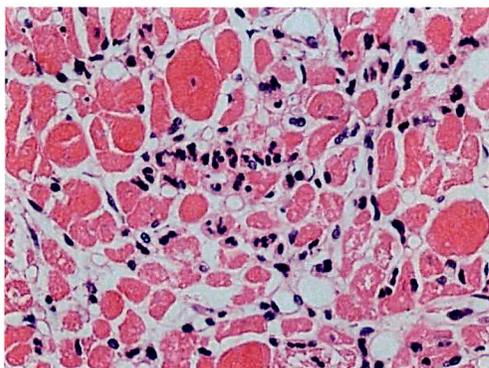
61 ただちに行うべき検査はどれか。

- a 運動負荷心電図
- b ホルター心電図
- c  $^{201}\text{Tl}$ 心筋シンチグラム
- d 心筋トロポニンの測定
- e 血中ウイルス抗体価の測定

62 引き続き、心臓カテーテル検査を施行した。冠動脈造影では、有意狭窄病変はなかった。左室心内膜心筋生検のヘマトキシリン・エオジン染色像を示す。

誤った対処はどれか。2つ選べ。

- a 帰宅させ経過を観察させる。
- b 尿量が低下してきたので、強心薬を投与する。
- c 徐脈性不整脈が出現したので、一時的ペースメーカを留置する。
- d 全身状態は安定しているが、経過観察のため集中治療室で管理する。
- e 心原性ショックに移行したため、大動脈バルーンパンピングを挿入する。



ヘマトキシリン・エオジン染色像

63 初期治療の方針としてふさわしいのはどれか。

- a 対症療法で自然回復を待つ
- b 非ステロイド系抗炎症薬
- c 冠動脈バイパス術
- d ステロイドパルス
- e 心膜ドレナージ

次の文を読み、64～66の問いに答えよ。

62歳の女性。2週間前からの階段昇降時の息切れを主訴に来院した。

現病歴：1年前より全身倦怠感、半年前より目のかすみを自覚している。15年前に健康診断で糖尿病と診断され、10年前より経口血糖降下薬を内服していた。

現症：身長153 cm、体重55 kg。脈拍88/分、整。血圧166/98 mmHg。意識は清明。眼瞼結膜は蒼白であるが、眼球結膜に黄染は認めない。下腿に浮腫を認める。

家族歴：父親が糖尿病である。

検査所見：尿所見：蛋白4+、糖1+、ケトン体(-)、潜血反応(-)。血液所見：赤血球240万、Hb 8.0/dl、Ht 25%、白血球7,200、血小板18万。血清生化学所見：随時血糖値185 mg/dl、HbA1c 7.4%、総蛋白5.8 g/dl、アルブミン2.4 g/dl、尿素窒素56 mg/dl、クレアチニン4.9 mg/dl、AST 32単位、ALT 24単位、ALP 420単位(基準260以下)、アミラーゼ220単位(基準37~160)。

64 身体診察で認められる可能性の高いのはどれか。2つ選べ。

- a グル音亢進
- b 甲状腺腫大
- c 起立性低血圧
- d 眼底の新生血管
- e アキレス腱反射の亢進

65 血液検査成績で高値を示すのはどれか。2つ選べ。

- a 尿酸
- b pH
- c リン
- d カルシウム
- e コレステロール

66 食事療法で正しいのはどれか。

	エネルギー (／日)	塩分 (／日)	タンパク質 (／日)
a	1,200	6 g	40 g
b	1,200	6 g	60 g
c	1,200	8 g	40 g
d	1,400	6 g	40 g
e	1,400	8 g	60 g
f	1,800	6 g	40 g
g	1,800	6 g	60 g
h	1,800	8 g	60 g

次の文を読み、67～69の問いに答えよ。

60歳の女性。

現病歴：3か月前から少量の性器出血が持続した為来院した。

妊娠分娩歴：1回経妊、1回経産。閉経52歳。

現 症：身長158 cm、体重72 kg。体温36.4℃。脈拍72 /分、整。血圧148/88 mmHg。腹部は平坦で、  
腫瘤を触れない。下肢に浮腫を認めない。内診で陰分泌物は暗赤色、中等量。子宮腔部に  
異常を認めない。双合診で子宮体部は鵝卵大に腫大しているが、付属器は触れない。直腸  
診で子宮傍組織は軟らかい。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。

血液所見：赤血球316万、Hb 10.2 g/dl、Ht 31%、白血球6,400、血小板28万。血清生化学所見：  
総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.8 g/dl、尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl、  
AST 18単位、ALT 14単位、LDH 248単位(基準176～353)。免疫学所見：CEA 3.7  
ng/ml(基準5以下)、CA 19-9 33 U/ml(基準37以下)、CA 125 60 U/ml(基準35以下)。  
子宮頸部細胞診NILM。胸部エックス線撮影で異常を認めない。経膈超音波画像を下に  
示す。



経膈超音波画像

67 診断に有用な検査はどれか。2つ選べ。

- a 子宮卵管造影
- b 子宮内膜組織診
- c コルポスコピー
- d ヒステロスコピー
- e プロゲステロン負荷テスト

68 その後悪性所見が確認された。この疾患の広がり of 検索に必要性が最も低いのはどれか。

- a 骨盤部MRI
- b 腹部造影CT
- c 膀胱鏡検査
- d 大腸造影検査
- e 骨盤血管造影

69 全身検索で遠隔転移を認めなかった。治療法として最も適切なのはどれか。

- a 手術
- b 温熱療法
- c 癌化学療法
- d 放射線治療
- e ホルモン療法